

研究成果報告書

災害に向けて、何をどうするか？

令和 6 年 3 月

研究代表者 金沢大学 藤生 慎

1. オープンフォーラムの概要

(1) 基調講演

令和5年度自然災害に関するオープンフォーラムとして「災害に向けて、何をどうするか？」を開催した。開催概要は以下の通りである。基調講演では、珠洲市の副市長より能登半島の先端部を中心として発生している群発地震や令和5年（2023年）5月に発生した石川県能登地方でのマグニチュード6.5（最大震度6強）の地震への対応について、対応、や制度について詳細な話題提供があった。珠洲市では独自の支援メニューを作成し、対応するなど様々な取り組みがあり、活発なディスカッションがあった。

日本自然災害学会 第42回学術講演会

令和5年度 自然災害に関するオープンフォーラム

災害に向けて、何をどうするか？

水害や地震など毎年のように巨大な災害が発生しています。被害地域の実態を知るとともに、現時点で何ができるのか、何が有効なのかを議論し、被害の軽減に役立つ情報を発信します。

● 基調講演 14:05 ~ 14:50 講演者（敬称略） 金田 直之（珠洲市副市長）	● パネルディスカッション 2部 16:00 ~ 16:50 「こどもの安全・安心 ～防災教育から交通安全教育まで～」 パネリスト（敬称略） 西多 由貴江（金沢大学附属幼稚園・園長） 上田 まずみ（金沢大学附属幼稚園・元園長）
● パネルディスカッション 1部 15:00 ~ 15:50 「災害に向けて、何をどうするか？」 パネリスト（敬称略） 高山 純一（公立小松大学・教授） 今 洋佑（金沢大学・特任准教授） 森崎 裕磨（金沢大学・助教） 国土交通省北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所 小橋川嘉樹（金沢大学・研究協力員）	

2023年 9月16日（土）

14:00 ~ 17:00

金沢大学サテライトプラザ

（金沢市西町教育研修館内）

石川県金沢市西町三番丁16番地

● 申込方法
下記のGoogle Formより申し込めください。
申込URL: <https://forms.gle/k17828K3XuUauVdKA>
なお、定員になり次第、申込フォームは閉じられます。



● 問い合わせ先
第42回日本自然災害学会学術講演会
オープンフォーラム実行委員会
金沢大学融合研究域 藤生 帆
E-mail: kanazawa.bosai@gmail.com

定員：120名

参加
無料

要予約



共催：日本自然災害学会、京華大学防災研究所、金沢大学
主催：第42回日本自然災害学会学術講演会 オープンフォーラム実行委員会
後援：一般財団法人 防災研究協会

（２）パネルディスカッション第１部 「災害に向けて、何をどうするか？」

パネルディスカッション第１部 「災害に向けて、何をどうするか？」では、パネリストに公立小松大学教授、高山純一氏、金沢大学特任准教授、今洋佑氏、金沢大学助教、森崎裕磨氏、国土交通省北陸地方整備局金沢港湾・空港整備事務所、所長、金沢大学研究協力員、小橋川嘉樹氏を招き、それぞれの立場から話題提供を行った。

① 公立小松大学教授、高山純一氏

北陸地方を中心とした防災まちづくりについて、豪雪にはじまった金沢港の整備から防災まちづくりがはじまったことを中心に話題提供をいただいた。また北陸地方では、災害がすくなかったが、近年は、地震や水害などが増加し、脆弱性の高い北陸地方でも防災・減災に対応するまちづくりを推進する必要性について発表があった。パネリスト、参加者との詳細なディスカッションがあった。

② 金沢大学特任准教授、今洋佑氏

防災・減災に関する日本の省庁の構造や法制度について詳細な説明があった。防災の担当が内閣府である意味や、これまでの災害にどのように対応してきたのかについても元役人の立場から詳細に話題提供が行われた。その後、パネリスト、参加者との詳細なディスカッションがあった。

③ 金沢大学助教、森崎裕磨氏

防災を取り巻く、最先端の研究動向について紹介があった。特に森崎助教からは高度高齢化先進地域としての能登半島において国民健康保険データベースを用いた医療・薬科・福祉などの研究成果のご発表があり、被災地内での医薬品の需給バランスの問題、さらに、どこにどのような身体状況の被災者が発生する可能性があるのかなどの事前予測が可能であることが示され、活発なディスカッションがあった。

④ 国土交通省北陸地方整備局金沢港湾・空港整備事務所、所長

国土交通省がこれまでに行ってきた、防災対策等について、地震、豪雨、大雪などを対象に詳細に紹介があった。特に北陸地方で発生した災害に対しては様々な全国からの支援等を利用して対策を実施していることについて紹介があった。

⑤ 金沢大学研究協力員、小橋川嘉樹氏

東日本大震災を事例にした災害時の報道がどのように行われたのかについて、ニュースや新聞に取り上げられたキーワードを活用した分析結果について紹介があった。災害報道には様々な特徴があり、時系列的に情報が急激に少なくなるため、災害報道や災害情報の発信方法にも工夫が必要であることが示された。

(3) パネルディスカッション第1部 「こどもの安全・安心～防災教育から交通安全教育まで～」

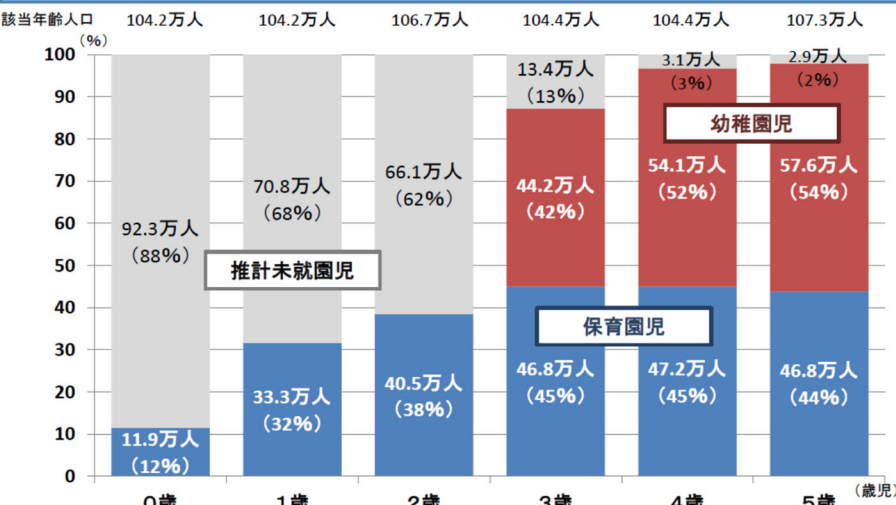
パネリストに金沢大学附属幼稚園園長、西多由貴江氏と金沢大学附属幼稚園・元園長、上田ますみ氏を迎えて、「こどもの安全・安心～防災教育から交通安全教育まで～」を実施した。

研究の背景

保育園と幼稚園の年齢別利用者数及び割合

9/16WG 厚生労働省提出資料3

- 0～3歳児の保育園の利用者数と利用割合は、年齢が上がるにつれて上昇している。
- 幼稚園児をあわせると、4・5歳児ではほぼ全ての児童が保育園か幼稚園を利用している。



※保育園の数値は平成26年の「待機児童数調査」(平成26年4月1日現在)の認可保育園の数。
※幼稚園の数値は平成26年度「学校基本統計」(平成26年5月1日現在)より。
なお、「幼稚園」には特別支援学校幼稚園も含む。
※該当年齢人口は総務省統計局による人口推計年報(平成25年10月1日現在)より。
※「推計未就園児数」は、該当年齢人口から幼稚園在園者数及び認可保育園在園者数を差し引いて推計したもの。
※四捨五入の関係により、合計が合わない場合がある。

出典: 内閣府

研究の背景

1

近年、東日本大震災や熊本地震など大規模な地震が多発。

災害弱者：CWAP

(Children・Women・Aged・Poor)



地震発生後の子どもの対応に関する課題

- 通信網及び交通網が遮断された状況で保護者との連絡が困難。
→引渡し等が困難になった。
- 下校させることができない子どもを学校で待機させた場合の備えが不十分。
- 限られた教職員で全ての園児の安全確保を図ることが困難。
- 強い余震が続き、怯える園児への対応に苦慮した。

出典：文部科学省「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」

限られた教職員の地震発災後の負担を軽くするために
保護者との円滑な子供の引き渡し・園内での対応が必要

研究の背景

2

保護者に子どもを引き渡せば幼稚園・保育園の責任は完了ではない。

※佐藤ら、地域安全学会（東日本大震災特集論文集，2017）



すでに帰宅していた園児が犠牲。
当時、園には100人以上。

出典：河北新報

バスでの避難時に園児が犠牲。
津波に対する避難訓練なし。

出典：河北新報



保護者・子どもの家族にも危機感がないと子どもの命は守れない。

子供を取り巻く教職員・保護者の災害対応力の向上が必要。

研究の背景（金沢大学附属幼稚園の悩みの一例）

親と園の対応

- どのような対応をすればいいのかわからない.
- 親とどのように連絡を取ればいいのかわからない.
- 親は園まで迎えにきてくれるのか？

→緊急お迎え訓練の実施

園児の知識

- 園児たちも災害・防災に対する知識を持っていて欲しい
- 発災時にきちんとした対応ができるのか
- 幼少連携に対する不安

→園児・教員への教育と宿題

食に関する不安

- 災害時の食をどのように確保すればよいのか？
- 災害時の食のアレルギーへの対応をどのようにすればよいのか？
- 食は幼稚園が準備か、保護者が準備か？

→防災リュックの中身調査

5

研究の目的

災害対応力を向上させるためには

個々の人間が災害状況を具体的にイメージできることが必要.

※阿部真理子, 目黒公郎: 保育園等の防災力向上に貢献する防災ワークショップ (目黒巻WS) の提案, 生産研究, 2012

円滑で安全な子供の引き渡しを行うためには

教職員と保護者の災害イメージネーションが...

- 現実的で具体的にイメージできていること.
- 両者のイメージが合致していること.

本研究の目的

子供を取り巻く教職員・保護者の両者の
地震発生後から受け渡しにおける実態を訓練を通じて把握

実践的防災訓練の実施（教員への事前訓練）



幼稚園が災害時に置かれる状況を説明

実践的防災訓練の実施（教員への事前訓練）



幼稚園児が災害時に置かれる状況を教室で説明

金沢大学附属幼稚園での緊急お迎え訓練の実施

緊急お迎え訓練

概要：震度6強の地震を想定した訓練を子ども・保護者に抜き打ちで行い、避難から保護者の引き渡し・自宅到着まで含んだ訓練。
訓練開始時（地震発生時）にお迎えの一斉メールを送信。

目的：幼児の防災意識の向上・教職員の災害対応力の向上。
緊急メールに対する保護者の対応力の向上。

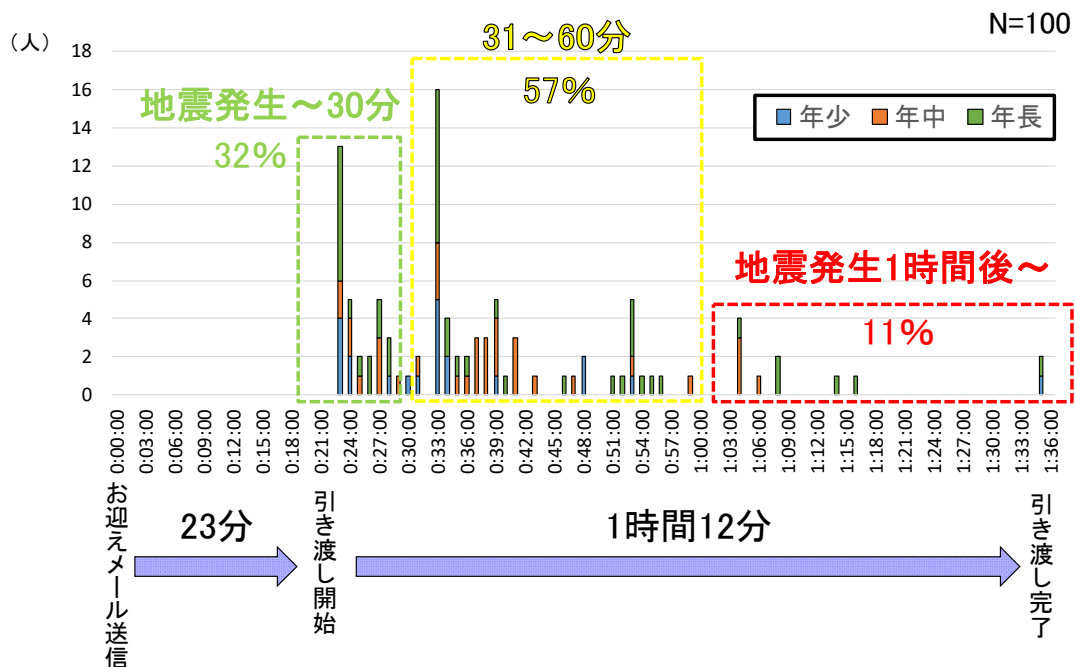


地震発生時の避難訓練の様子



保護者へ引き渡しの様子

保護者のお迎え訓練結果



学年によってお迎え完了時間の差異は見られなかった。

調査方法

郵送回収を用いた紙面調査（実施日：2017年10月30日）

Step 1 園用アンケート

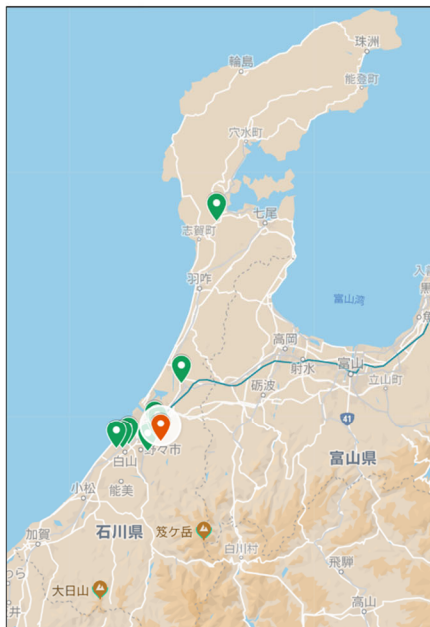
- 調査対象 : 石川県内の幼稚園・保育園・認定こども園
- 内容 : 園の基本属性, 防災マニュアル, 防災教育, etc.
- 配布数 : 410 (幼稚園:45, 保育園:220, 認定こども園:145)
- 回収数 : 146 (回収率35.6%)

調査に協力していただける園に対して, 教職員・保護者用アンケートを人数分配布

Step2 教職員用アンケート&保護者用アンケート

- 調査対象 : 対象園の教職員, 対象園に子どもを預ける親
- 内容 : 個人属性, 防災意識, 地震災害発生後の行動
- 配布数 : 教職員用:654, 保護者用:1864
- 回収数 : 教職員用:381(58.3%), 保護者用:320(17.2%)

分析対象園



※Google Map

教職員・保護者アンケートに協力いただいた園

10園 (幼稚園:3, 保育園:4, 認定子ども園:3)

本研究では, まず一つの園に着目

金沢大学附属幼稚園

- 配布数 (教職員) : 11人
- 配布数 (保護者) : 116人
- 回答数 (教職員) : 9人 (81.8%)
- 回答数 (保護者) : 50人 (43.1%)

金沢大学附属幼稚園の防災対策

Q1. 震災時の保護者の連絡手段

A1. メール・電話（震度6強以上の場合、連絡なしでも迎えに来る）

Q2. 地震に対する避難訓練の頻度

A1. 年2回

Q3. 想定している2次災害

A3. 火災、余震（津波については、海から距離があるため考慮なし）

Q4. 保護者参加型の地震に対する避難訓練の有無と内容

A4. 実施している（年に1回の緊急お迎え訓練）

Q5. 保護者参加型の地震に対する防災教育の有無と内容

A5. 実施していない

金沢大学附属幼稚園の防災対策

緊急お迎え訓練

概要：震度6強の地震を想定した訓練を子ども・保護者に抜き打ちで行い、避難から保護者の引き渡し・自宅到着まで含んだ訓練。訓練開始時（地震発生時）にお迎えの一斉メールを送信。

目的：幼児の防災意識の向上・教職員の災害対応力の向上。
緊急メールに対する保護者の対応力の向上。



地震発生時の避難訓練の様子



保護者へ引き渡しの様子

アンケート項目（教職員の災害イマジネーション）

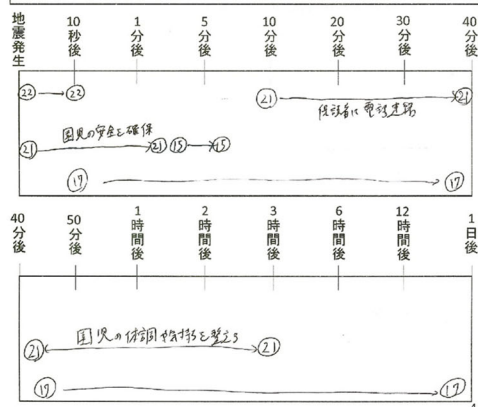
アンケートの一例

問16. 震災後の行動についてお答えください。

お子さんが園にいる時間に、震度7の地震が発生した場合にあなたがとる行動についてお答えください。
①～⑮の中から右ページの記入例に従って記入してください。行動⑯は何をどのように使うか具体的に記入してください。行動⑰はどのような行動をとるか具体的に記入してください。行動パターン中の「学校」とはあなたのお子さんがいる場所を指します。

行動パターン

行動①: 学校に行く	行動⑯: 友人・知人にメールする
行動②: 学校の避難場所に行く	行動⑰: 園児と園の近くの避難所に行く
行動③: 学校に電話（通話）する	行動⑱: 園児と園で待機する
行動④: 学校にメールする	行動⑲: テレビやラジオで情報収集する
行動⑤: 夫（妻）に電話（通話）する	行動⑳: 他園に連絡する
行動⑥: 夫（妻）にメールする	行動㉑: 役所の指示を仰ぐ
行動⑦: 祖父母に電話（通話）する	行動㉒: 職務を行う（内容： ）
行動⑧: 祖父母にメールする	行動㉓: 身の安全を守る
行動⑨: 学校の災害用伝言ダイヤルを確認する	行動㉔: 食料を確保する
行動⑩: 学校の災害用掲示板を確認する	行動㉕: 園児と園の近くの避難所で待機する
行動⑪: 家族の災害用伝言ダイヤルを確認する	行動㉖: 電気・水道・ガスを使う
行動⑫: 家族の災害用伝言板を確認する	行動㉗: その他
行動⑬: 友達・知人に電話（通話）する	
行動⑭: 友達・知人にメールする	



設定

園児が園にいる時間帯に
震度7の地震が発生。

回答方式

地震発生から24時間までの行動
を記入。

➤ 25種の行動を選択肢

園児を引き渡すまでに行い
うる行動を列挙。回答者に
子供がいた場合も想定。

➤ その他

自由記述。

➤ 複数回答あり

同じ時間帯に複数の行動を
行う場合。

教職員の地震発生後の行動

No	行動内容	総出現数
行動1	学校に行く	0
行動2	学校の避難場所に行く	5
行動3	学校に電話する	3
行動4	学校にメールする	2
行動5	夫（妻）に電話（通話）する	3
行動6	夫（妻）にメールする	2
行動7	祖父母に電話（通話）する	2
行動8	祖父母にメールする	3
行動9	学校の災害用伝言ダイヤルを確認する	0
行動10	学校の災害用掲示板を確認する	0
行動11	家族の災害用伝言ダイヤルを確認する	1
行動12	家族の災害用伝言板を確認する	1
行動13	友達・知人に電話（通話）する	1
行動14	友達・知人にメールする	2
行動15	園児と園の避難エリアに行く	4
行動16	園児と園の近くの避難所で待機する	9
行動17	園児と園で待機する	72
行動18	テレビやラジオで情報収集する	50
行動19	他園に連絡する	0
行動20	役所の指示を仰ぐ	10
行動21	職務を行う（内容： ）	87
行動22	身の安全を守る	21
行動23	食料を確保する	10
行動24	自宅に貴重品を取りに行く	0
行動25	電気・水道・ガスを使う	0
行動26	その他	3

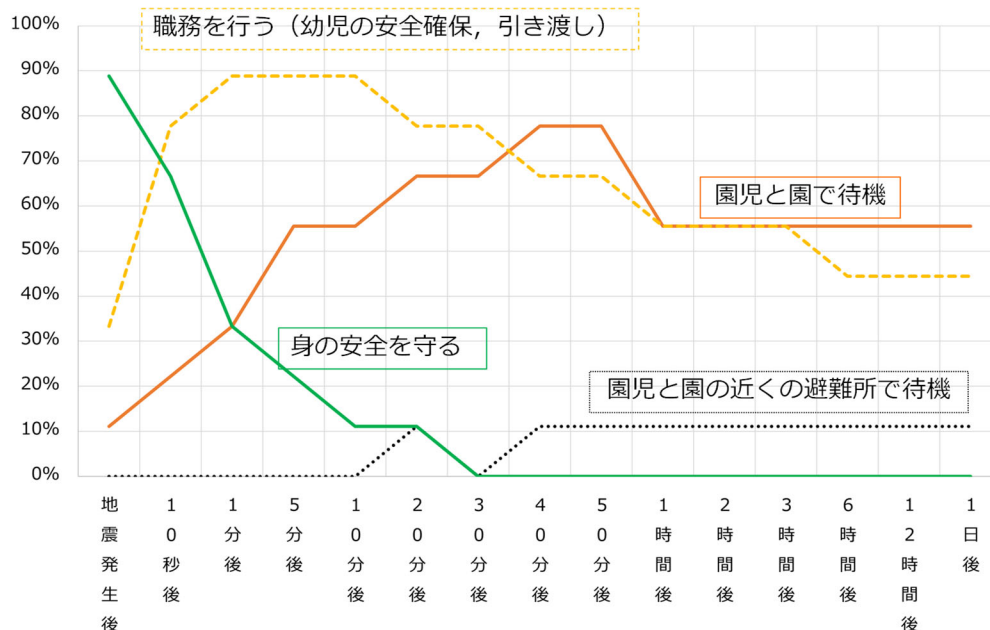
本研究では、引き渡しに関係
する行動で総出現数が多いも
のについて着目する。

対象とする行動

- 園児と園の近くの避難所で待機する。
- 園児と園で待機する。
- 職務を行う。
- 身の安全を守る。

これらの行動について
時系列で把握する。

時系列で見る教職員の地震発生後の行動



24時間後も約半数の教職員が園児と園で待機して引き渡すことを想定。

アンケート項目（保護者の災害イメージ）

アンケートの一例

問18. 震災後の行動についてお答えください。

お子さんが園にいる時間に、震度7の地震が発生した場合にあなたがとる行動についてお答えください。震度7の地震が発生してから、時間経過とともに、あなたがとると想定される行動パターン①～⑤の中から別紙の記入例に従って記入してください。行動⑥は何をどのように使うか具体的に記入してください。行動⑦はどのような行動をとるか具体的に記入してください。

・行動パターン

行動①: 子どもを預けている園に行く	行動⑥: 友人・知人に電話（通話）する
行動②: 子どもを預けている園の避難場所に行く	行動⑦: 友人・知人にメールする
行動③: 子どもを預けている園に電話（通話）する	行動⑧: 職場の近くの避難所に行く
行動④: 子どもを預けている園にメールする	行動⑨: 自宅の近くの避難所に行く
行動⑤: 夫（妻）に電話（通話）する	行動⑩: 自宅で待機する
行動⑥: 夫（妻）にメールする	行動⑪: 職場で待機する
行動⑦: 祖父母に電話（通話）する	行動⑫: テレビやラジオで情報収集する
行動⑧: 祖父母にメールする	行動⑬: 自宅の近くの避難所で待機する
行動⑨: 園の災害用伝言ダイヤルを確認する	行動⑭: 身の安全を守る
行動⑩: 園の災害用伝言ダイヤルを確認する	行動⑮: 食料を確保する
行動⑪: 家族の災害用伝言ダイヤルを確認する	行動⑯: 自宅に貴重品を取りに行く
行動⑫: ママ（パパ）友に電話（通話）する	行動⑰: 電気・ガス・水道を使う
行動⑬: ママ（パパ）友にメールする	行動⑱: その他

地震発生後 10秒後 1分後 5分後 10分後 20分後 30分後 40分後

40分後 50分後 1時間後 2時間後 3時間後 6時間後 12時間後 1日後

子どもの避難行動

家族と避難所へ連絡

設定

お子さんが園にいる時間帯に震度7の地震が発生。

回答方式

地震発生から24時間までの行動を記入。

➤ 27種の行動を選択式

園に預けているお子さんと会うまでに行いうる行動を列挙。

➤ その他

自由記述。

➤ 複数回答あり

同じ時間帯に複数の行動を行う場合。

保護者の地震発生後の行動

No	行動内容	総出現数
行動1	子どもを預けている園に行く	185
行動2	子どもを預けている園の避難場所に行く	22
行動3	子どもを預けている園に電話(通話)する	38
行動4	子どもを預けている園にメールする	13
行動5	夫(妻)に電話(通話)する	73
行動6	夫(妻)にメールする	48
行動7	祖父母に電話(通話)する	40
行動8	祖父母にメールする	20
行動9	園の災害用伝言ダイヤルを確認する	8
行動10	園の災害用掲示板を確認する	10
行動11	家族の災害用伝言ダイヤルを確認する	6
行動12	家族の災害用伝言板を確認する	4
行動13	ママ(パパ)友に電話(通話)する	3
行動14	ママ(パパ)友にメールする	4
行動15	友人・知人に電話(通話)する	1
行動16	友人・知人にメールする	5
行動17	職場の近くの避難所に行く	0
行動18	自宅の近くの避難所に行く	25
行動19	自宅で待機する	127
行動20	職場で待機する	1
行動21	テレビやラジオで情報収集する	167
行動22	自宅の近くの避難所で待機する	46
行動23	職場の近くの避難所で待機する	0
行動24	身の安全を守る	131
行動25	食料を確保する	45
行動26	自宅に貴重品を取りに行く	15
行動27	電気・水道・ガスを使う	55
行動28	その他	144

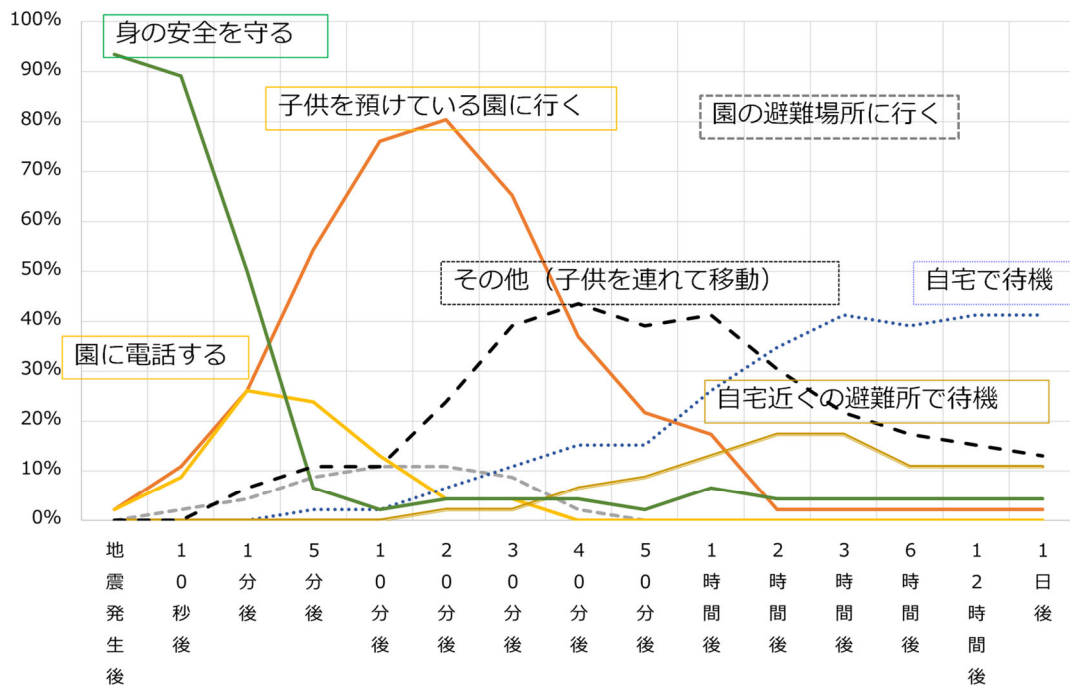
本研究では、引き渡しに関係する行動で総出現数が多いものについて着目する。

対象とする行動

- 子どもを預けている園に行く
- 園の避難場所に行く
- 園に電話する
- 自宅で待機する
- 自宅の近くの避難所で待機する
- 身の安全を守る
- その他

これらの行動について
時系列で把握する。

時系列で見る保護者の地震発生後の行動



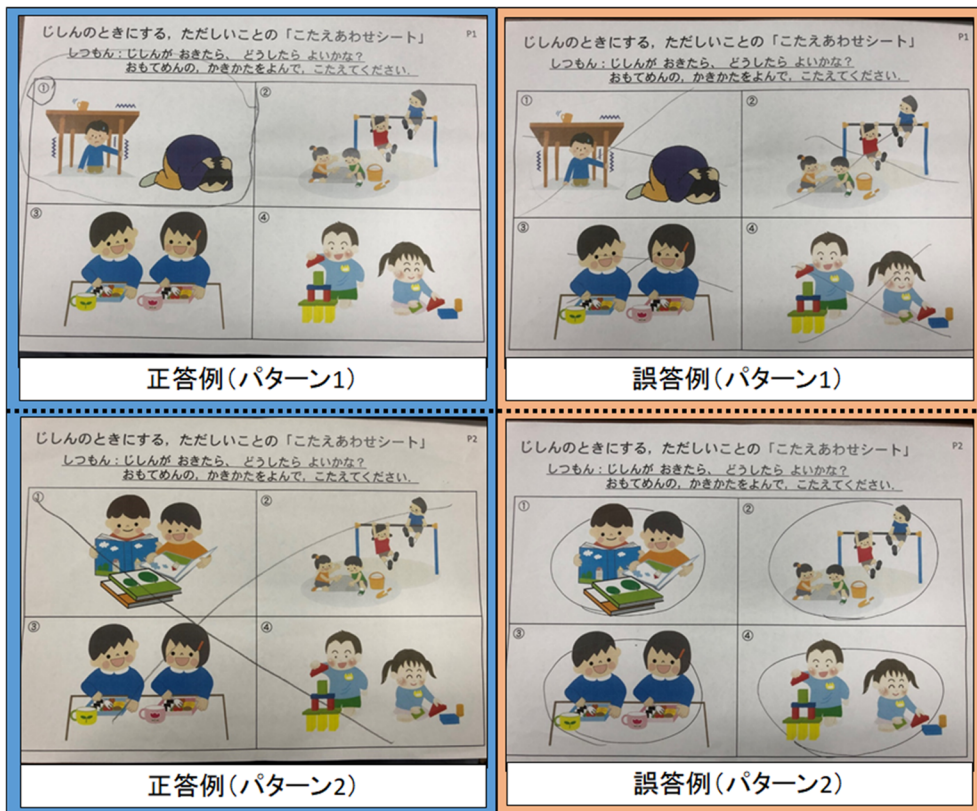
2時間後には子供の引き渡しが完了していることを想定

まとめ

- 園の教職員・保護者を対象としたアンケート調査によって、地震発生から引き渡しまでの災害イメージングを把握。
- 園の教職員は、引き渡しにかかる時間は1日以上かかることを想定している。一方、ほとんどの保護者は2時間以内に子供を引き取り、自宅や自宅近くの避難所へ移動することが分かった。

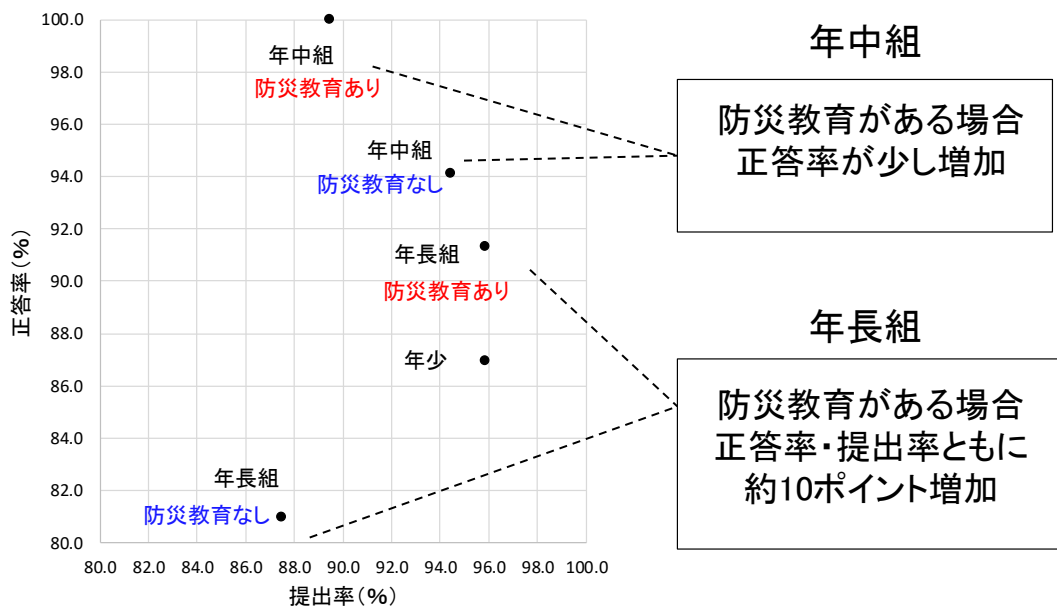
今後の課題

- 他の園との比較
施設の形態：幼稚園，保育園，認定こども園の差
立地条件：2次災害の想定の有無
防災対策：保護者参加型の防災訓練の有無
- 個人属性による分類
被災経験の有無による災害イメージングの差異の検証





防災に関する宿題の正答率と提出率



年齢(学年)によって正答率・提出率に傾向が見られなかったが、
教員の防災教育の有無によって正答率に差が見られた

幼稚園の備蓄品の実態

- 幼稚園や保育園では、災害時に備えて園児のための備蓄を行っている
- 備蓄だけでなく園児個人の防災リュックを準備している園も存在する。
- 筆者らが石川県を対象として実施したアンケート調査の結果、約80%の園が災害時の備えとして備蓄品を準備しており、そのほとんどすべてで園が備蓄品を準備していた。
- 本研究で対象とした金沢大学附属幼稚園のみ保護者が防災リュックを準備する形態
- 備蓄品を園が準備した場合、均質な備蓄品を揃えられることから災害時のように人的対応力が低下している場合には、園児へ効率的な配分ができるなどのメリットがある
- アレルギーへの対応や嗜好、普段と異なる食べ物を食べることへの抵抗感が存在
- 備蓄品としての役割を果たさない可能性も十分に考えられる。

幼稚園・保育園の備蓄品のあり方を考える必要性は？？

25

幼稚園の防災リュック



保存水・普段から飲んでいる水、災害用の食料、日常的に食べているお菓子など防災リュックの中身は多種多様

26

防災リュックの中身の把握

1年目

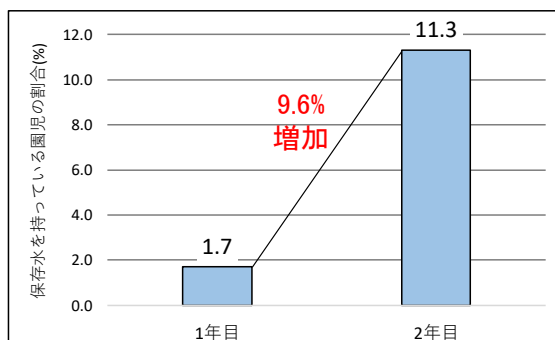
園児109人分の防災リュックの中身をリスト化

2年目

非常食の種類、品名、カロリー、個数、総カロリー数、賞味期限

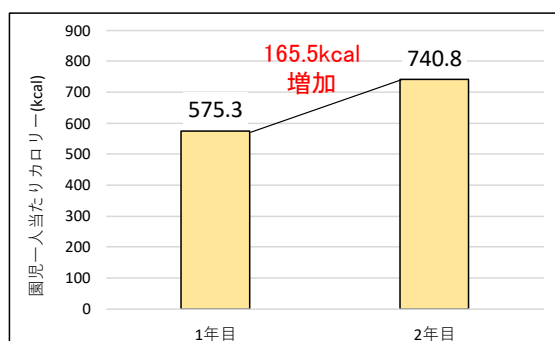
28

防災リュックの内容物に関する基礎的把握～1, 2年目の比較～



【保存水を持っている園児の割合】

- 1年目: 1.7%
- 2年目: 11.3% (9.6%増加)
- 養護教諭による年度末の防災リュックに関する懇談会の効果か!?
- 保存水を園児が開けることが可能か?



【園児一人当たりのカロリー(kcal)】

- 養護教諭からの情報提供: 500～700kcal
(幼稚園児に必要なカロリー: 1250～1500kcal)
- 1年目と比較して約170kcalの増加
- 品目数: 1.51品目(1年目)
1.79品目(2年目)

29

保護者を対象としたアンケート調査

非常食についてのアンケート

金沢大学附属幼稚園

非常食の今後の準備の参考にするため、アンケートにご協力ください。
 あてはまるものすべての()内に○をつけてください。

1. 非常食の購入先について ☐ 探してみた ☒ 購入した

①スーパー() ②ホームセンター() ③インターネットショッピング()
 ④通販() ⑤その他()

2. 購入する時に気をつけたこと

①できるだけ賞味期限の長いもの()
 ②子どもが好きなもの()
 ③熱量(kcal)が大きいもの()
 ④小さくかさばらないもの()
 ⑤その他()

3. 非常用リュックに入れるものすべてに子どもの名前を記入しましたか
 ①記入した()
 ②記入しなかった()

配布時のプリントには特に書かれていなかったのに、記入しようと思った理由をお書きください。

4. 非常食を準備する際、困ったことや気づいたことがあれば記入してください。

困ったこと・気づいたこと

準備したことがなく、何件も店を探した

量をどのくらいにすれば良いか。小さなものなら他のもの(マスク等)も入れて良いのかなと思った
 色々な種類があり、好みの食べ物があつたので安心した
 種類がなかった
 非常時に先生がリュックを広げたときに子供が笑顔に慣れる商品、また、子供全員が皆それを好きで分け合える商品という観点で選びました。1年毎に中身を改めさせていただけることで選択肢が増えるので助かります。
 ホームセンターのカンパン・ビスケットが完売でした

思考

どのくらいの量を準備すれば良いか(1食分?1日分?)
 どのくらいの量が適当か?おやつ程度ということでしたが、わが子が実際のときに不安な気持ちを少しでも和らげることができたらと思いから1つ多く入れてしまいました。個人差を少しでもなくすのであればおよその総カロリーを指定すると良いと思う

非常食を購入してみても缶に入っているものは、娘が自分で開封できるのか心配になりました。先生が開けてくださるのではないかと思います。缶のものを持たせましたが自分で開封の練習をさせようと思いました。

カンパンのふたを自分で開けることができないのではと不安です。
 水の賞味期限がわかりにくかった事

行動予測

どのくらいの量をよういすればよいか

子どもが非常食をたべたことがないので食べられるか心配
 量や種類

情報収集

防災リュックの取り組み1年目と2年目を比較するためアンケート調査を実施 30

保護者を対象としたアンケート調査

非常食についてのアンケート

金沢大学附属幼稚園

非常食の今後の準備の参考にするため、アンケートにご協力ください。
 あてはまるものすべての()内に○をつけてください。

1. 非常食の購入先について ☐ 探してみた ☒ 購入した

①スーパー() ②ホームセンター() ③インターネットショッピング()
 ④通販() ⑤その他()

2. 購入する時に気をつけたこと

①できるだけ賞味期限の長いもの()
 ②子どもが好きなもの()
 ③熱量(kcal)が大きいもの()
 ④小さくかさばらないもの()
 ⑤その他()

3. 非常用リュックに入れるものすべてに子どもの名前を記入しましたか
 ①記入した()
 ②記入しなかった()

配布時のプリントには特に書かれていなかったのに、記入しようと思った理由をお書きください。

4. 非常食を準備する際、困ったことや気づいたことがあれば記入してください。

困ったこと・気づいたこと

準備したことがなく、何件も店を探した

量をどのくらいにすれば良いか。小さなものなら他のもの(マスク等)も入れて良いのかなと思った
 色々な種類があり、好みの食べ物があつたので安心した
 種類がなかった
 非常時に先生がリュックを広げたときに子供が笑顔に慣れる商品、また、子供全員が皆それを好きで分け合える商品という観点で選びました。1年毎に中身を改めさせていただけることで選択肢が増えるので助かります。
 ホームセンターのカンパン・ビスケットが完売でした

思考

どのくらいの量を準備すれば良いか(1食分?1日分?)
 どのくらいの量が適当か?おやつ程度ということでしたが、わが子が実際のときに不安な気持ちを少しでも和らげることができたらと思いから1つ多く入れてしまいました。個人差を少しでもなくすのであればおよその総カロリーを指定すると良いと思う

非常食を購入してみても缶に入っているものは、娘が自分で開封できるのか心配になりました。先生が開けてくださるのではないかと思います。缶のものを持たせましたが自分で開封の練習をさせようと思いました。

カンパンのふたを自分で開けることができないのではと不安です。
 水の賞味期限がわかりにくかった事

行動予測

どのくらいの量をよういすればよいか

子どもが非常食をたべたことがないので食べられるか心配
 量や種類

情報収集

防災リュックの取り組み1年目と2年目を比較するためアンケート調査を実施 30

まとめと今後の課題

親と園の対応 →緊急お迎え訓練の実施

- 緊急対応メールを親がきちんと確認している
- 1時間以内にお迎えが可能な場合が多い
- ファミリサポーター等のサポートが受けられずお迎えまで時間を要する

園児の知識 →園児・教員への教育と宿題

- 年齢(学年)によって正答率・提出率に傾向が見られなかったが、教員の防災教育の有無によって正答率に差が見られた
- 幼少連携に対する不安(年長組が机あり, 年中組・年少組は机がない), 机の下, ダンゴムシのポーズ

食に関する不安 →防災リュックの中身調査

- 親への教育により防災リュックの中身が改善
- 園児が開けられるかどうかについては検討が必要